

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート レポート

*被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から2016年5月までで通算191回となりました。

< 第34号 >

2016年7月

発行：(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

この春、桜の季節から新緑の季節にかけて、2度にわたって福島県南相馬市を訪れました。5月は、「被災地に音楽を」初の試み、日本フィル コミュニケーション・ディレクターのマイケル・スペンサー氏によるワークショップを開催しました。

5月6日~7日

「ジョン・ケージと同じように作曲したよ。」

生徒も先生も大興奮 音楽によるコミュニケーションと表現の新しい世界を発見

ゴールデンウィークの間を縫って、4月に引き続き南相馬市立原町第一中学校を訪れました。いつもは管楽器奏者とクリニックに訪れるところを、今回は、コミュニケーション・ディレクターのマイケル・スペンサーとワークショップファシリテーターを務める楽員4名(Vn佐藤、Va中川、Vc大澤、Tb伊波)が訪問。全国大会へ出場するほどの実力を誇っていた吹奏楽部ですが、震災後生徒が激減。部員も6割程度まで減ってしまっています。顧問の先生から、「今の子は受け身で、覇気がない。いわれたことしかしない。気が利かない・・・。」という話を聞き、ワークショップという音楽創造の場で、技術だけではない音楽を通じた学びの機会を提供することとなりました。ワークショップの目的は、参加者がコミュニケーションを深めながら体験を通して、学ぶことです。今回の二日間は、ジョン・ケージの《musicircus》を題材にワークをしていきます。まずは初めて訪れた日本フィルメンバーたちへ、アンサンブルを聴かせてもらいました。全国大会で金賞を受賞するほどの実力です。マイクさんも感心しっぱなし。とはいえ、演奏に一生懸命な彼ら。マイクさんからジャズの演奏家のことや楽器の歴史など音楽のエッセンスが子供たちに与えられていきます。いよいよ、本題のスタート。皆で集まりマイクさんによるジェスチャーが始められます。音の無い世界を想像したことがありますか？と。子供たちに想像させ、問いながら「世界の音楽」の講義が行われました。初日最後の15分、グループに分かれて、ある文字(形)が書かれた紙を其々に渡し、それを体で表現して他のグループに伝えてください、という課題が与えられました。発表してみると色々な表現がありましたが、実はすべて同じ文字(形)だったのです。表現の多様性が示されます。



翌日、二日目は、音楽作りに没頭します。前日の最後に行ったように、与えられた課題の表現を考え、サイコロでスコアを創っていきます。生演奏に合わせてダンスも体感しました。表現とはなんだろう？と考えながら各々の作品を仕上げました。最後は全員で集まり一斉に演奏して、皆で一つの作品を作り上げました。「音」の瞬間、「リズム」の瞬間、「声」の瞬間、そして「沈黙」の瞬間。輝きに満ちた笑顔が弾けました。



顧問の先生よりお手紙を頂戴しました。

「マイク氏の音楽創造ワークショップの二日間は、とても幸せな時を過ごすことができました。

一体どんなことをやるのだろうと期待と不安が入り交じった気持ちで当日を迎えた私たちでした。一日目、課題に取り組む生徒たちを見て、私は不安が増大していきました。課題解決に必要な発想力、コミュニケーション能力、表現力、どれもこれも日ごろの生徒たちに不足していると感じていたものばかりですから。救いは何とか解決しようとする真面目さのみ。この先大丈夫なのだろうかとドキドキしていました。

二日目は「偶然性の音楽」本格始動です。日フィルの方々の適切な指導で少しずつ進めていけました。しかし、トンチンカンな問答をしているもの、正しく理解できずに突き進んでいるものかいて心配はさらに膨れていきました。ところが、マイク氏やファシリテーターの皆さまの厳しい追及の手に、たじろぐかと思いきや、果敢に挑み改善していく生徒の姿を見て、驚きました。そこには、いつのまにかリーダーを中心にグループとして積極的に動き出している生徒たちがいました。ファシリテーターの皆様の上手な導き方に感激です。

構想ができあがってからの生徒たちは、得意分野の練習に取り組むだけですから安心でした。より良いパフォーマンスに仕上げようと熱心な練習が繰り返されていました。『演奏者として、それはどうなんだ?』という言葉をもらうと、より真剣に表現について考え、真摯に取り組む生徒たち。それは、リズムであったり、テンポであったり、強弱であったり、音色だったり、テクスチャだったり。音楽的要素を自覚し、表現に生かしていこうと頑張っていました。

二十分の発表は非常にエキサイティングでした。様々なものから音を紡ぎだし、楽器、体の動き、言葉による音のシャワーは実に心地よく音楽的だと感じました。特別な時を共有することができました。

生徒たちに素晴らしい音楽の種が蒔かれました。何と幸せなことでしょう。ありがとうございました。種を蒔かれた生徒たちは、以前よりも元気で、表現も積極的になってきたように思います。種が芽を出し、順調に成長していくように、正しい手入れをして見守っていきたくて考えています。」



マイケル・スペンサー氏

今回のように、音楽家や音楽団体が学校教育に入り込んで効果的な役割を果たすということがもっと日常的に行われるべきだと私は考えています。ですが実際には、行政上の新しい試みが生徒にとって本当に意味のある「教育的な価値」よりも優先されてしまうことがあるようですが・・・。

そんな制約があるなか、原町第一中学校の先生方は熱心にこのプロジェクトを受け入れてくれました。当初、プロジェクトの内容や子どもたちへの影響がどんなものになるか彼らは心配していたようですが、信頼はすぐに築かれ、今は良き理解者となってきています。

原一中吹奏楽部の生徒たちとこのプロジェクトを出来たことを本当に嬉しく思っています。なぜなら、彼らのしっかりした音楽的な基礎力はこのプロジェクトを更に素晴らしいものへと押し上げてくれましたし、新しいことに挑戦する彼らの意欲と率直さは、これまでに行ったどのプロジェクトにもなく、たいへん意義深い結果をもたらしてくれたからです。私は、今回のプロジェクトがこれからの未来のワークショップのベースとなることを願っています！

ファシリテーターを務めた楽員より

佐藤駿一郎（ヴァイオリン）

自分自身もジョン・ケージのワークショップは初めてでしたが、生徒たちにとってもやる気がある、積極的で、少しアドバイスをすると自分たちで広げていってくれました。

サイコロを振りながら譜面を作る作業がとても楽しそうでした。

同じ方法（例えば新聞）を使っても、それぞれのチームが異なる”作品”を作っていて、そういう違いを楽しめるきっかけにもなったと思います！

伊波 睦（トロンボーン）

皆んなで創作していく ということ。これがこのワークショップのポイントである。普段、コンクールに向けて曲を仕上げていくという事を熱心にやっている生徒達。彼女達が普段やらない作業。途中で思考停止状態に何度もなる。自分の楽器で簡単な音階、クラブ活動でやっていることに逃げたりする。

でもそれを否定しないで、それを使って音楽的な事を感じてもらったり、ないがしろにしているフレーズには、普段やっている楽曲に対する思いを想像してもらいながら、自分たちの音楽を完成させていく。なんせ20分の曲だから、リハーサルも大変。全員で作曲しながら全員で演奏する。

ぶっつけ本番。部屋に6グループ分かれ、一斉に演奏を始める。素晴らしい奇跡があちこちに現れる。どのような結果になるのかは、ファシリテーターは経験があるが、今日は特にびっくり。もちろん偶然ではあるが、あらかじめ各グループが打ち合わせをして作曲したような曲に。曲が進行するにしたがって、あの子達は明らかに他のグループを聞きながら演奏している。

やはり、普段合奏をやっているからなのか？

マイク曰く、新しい可能性を感じたワークショップであった。顧問の阿部侑和代先生曰く、“もっと生徒を信じたいと思いました。” 支援のお母様方 目がキラキラしていた。私も少しのアイデアでも工夫したり加工したりすることで楽しめた。

何かやらされている感がある吹奏楽の活動。いつもと違うことに喜びを感じてくれると嬉しいな。

日本フィル「被災地に音楽を」実施一覧

(2015年度以降)

【2015年】

- 5月1日 南相馬市原ノ町第二小学校
- 2日 南相馬市原ノ町一中学校
- 3日 同上
- 29日 岩手県立山田高校
- 30日 山田町立北小学校
介護事業所「恵みの里眺望」
- 31日 同町「いきがいテイサロン」
「いっほいっほ岩手」
- 6月19日 宮古市立高浜小学校
宮古恵風支援学校
- 20日 同市山口公民館
同市「かがやきテイサロン」
- 9月4日 南相馬市小高地区同慶寺
- 9月6日 南相馬市民文化会館（ゆめはっと）
- 11月8日 荻窪音楽祭「みらい夢コンサート」
- 11月28日 大船渡市大船渡リアスホール
- 30日 南相馬市 鹿島生涯学習センター
- 12月19日 カトリック潮見教会

【2016年】

- 4月2日 南相馬市小高地区同慶寺（コンサート）
- 4月3日 南相馬市原町第一中学校（レクチャー&コンサート）
- 5月6～7日 南相馬市原町第一中学校（マイクさんワークショップ）